

プロジェクト名	放課後児童クラブの音環境整備に関する研究		
プロジェクト期間	平成 22 年度		
申請代表者 (所属講座等)	鈴木 佐代 (家政教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	岡俊江 (九州女子大学) 豊増美喜 (大分大学大学院)
取組方法および 取組実績の概要	<p>放課後児童クラブ（学童保育とも称す）は、施設に関する詳細な基準がないことや、児童数増加による過密化等により、音声コミュニケーションの妨害、静養スペースや指導員の事務スペースの騒音など、音環境に起因する問題が明らかとなっている。本研究では、児童および指導員の生活環境の質的向上を目指し、放課後児童クラブの音環境を測定し、改善手法を検討することを目的として、以下の取り組みを行った。</p> <p>1) 北九州市八幡西区の放課後児童クラブ 2 施設を対象に、学校の夏季休業日と平日の各 1 日について、児童の生活行動の観察調査と室内音環境測定を行った。(2010 年 8 月～9 月)</p> <p>2) 音環境測定の結果をまとめた児童向けポスターを調査対象 2 施設と北九州市子ども家庭局子ども家庭部子育て支援課に送付した。(2010 年 12 月)</p> <p>3) 室内音環境と床仕上げ材との関係を調べるために、家政教棟家庭科教材開発室にて、ボールの落下音および積み木の倒壊音の騒音レベルを測定した。使用した床材は、フローリング、畳、コルク床、カーペットである。(予備実験：2011 年 1 月、本実験：2011 年 3 月実施予定)</p> <p>4) 以上について分析・考察を行った。</p>		
研究成果の概要	<p>1) 生活行動の観察調査から、児童の 1 日の生活の流れは、学校休業中（夏休み）の場合、「朝礼→宿題→外遊び（室内も可）→昼食→室内自由遊び→おやつ→室内自由遊び→帰宅」であった。クラブの生活の中で長い時間を占める室内自由遊びの内容は、H クラブではおもちゃを使用しない鬼ごっこやぬり絵、I クラブでは積み木やブロック遊びが多く観察された。</p> <p>2) 児童のための専用の部屋である活動室の 5 分間の等価騒音レベルは、2 施設に共通して、児童が指導員から説明を受ける時間帯が最も低い（H クラブ 49.8 dB、I クラブ 70.4 dB）。最も高いのは、H クラブでは昼食終了から自由遊びの時間帯の 90.4dB、I クラブではおやつ時間帯の 88.3 dB である。</p> <p>3) 体調が悪い時などに利用する静養スペースでの高い騒音レベルは、利用する児童への影響や、指導員の支援・指導の上の問題が懸念されるが、静養スペースが活動室の一角にある場合や、静養スペースと活動室につながるドアが開いている場合、活動室と静養スペースの騒音レベルは概ね同様の変動がみられ、活動室の音の影響を受けていることが明らかとなった。</p> <p>4) 活動室の騒音レベルが 85dB 以上の時間帯の主な発生音は、2 施設とも児童の声であるが、H クラブでは足音、I クラブでは積み木・ブロックの音がそれぞれ観察される等、クラブにより発生音に違いがあることがわかった。活動室や静養スペースの騒音レベル低減の検討には、吸音性のある内装仕上げ材の吸音効果の検討や、各クラブの音源を考慮し遮音に配慮した平面計画の検討等が必要であろう。</p> <p>以上の研究成果は、以下の学会で発表する予定である。</p> <p>(1) 日本音響学会 2011 年春季研究発表会（平成 23 年 3 月）、「放課後児童クラブの室内音環境に関するケーススタディ」</p> <p>(2) 日本家政学会 第 63 回大会（平成 23 年 5 月）、「放課後児童クラブ</p>		

	の生活環境整備に関する研究 -生活行動と室内音環境に関するケーススタ ディ-		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について			
外部資金獲得 申請 (予定)	科学研究費補助金	研究成果の 公表方法 (予定)	国内学会にて発表予定

「取組方法・取組実績の概要1）」に関する資料

放課後児童クラブにおける児童の生活行動と5分間の等価騒音レベルの時間変動

